



鳥獣被害防止対策の充実

- 野生鳥獣の適正な管理により、農林水産業被害・生活環境被害の低減を図り、人と野生鳥獣との共生を目指す。

【提案・要望先】農林水産省・環境省

1. 提案・要望内容

(1) ニホンザルによる生活環境被害対策の支援の充実

- ニホンザルによる生活環境被害軽減のために群れ捕獲を実施することに対する支援事業を創設すること

(2) カワウ捕獲にかかる技術的支援および財政的支援の充実等

- カワウを指定管理鳥獣に指定し、指定管理鳥獣捕獲等事業の対象とすること
- 水産業被害・生活環境被害軽減のために効果的・効率的な捕獲技術の研究・開発を国において行い、技術的支援を行うこと
- 住居集合地域等における銃器捕獲実施にあたっての必要な安全確保等に関する条件の整理を行うこと

2. 提案・要望の理由

(1) ニホンザルによる生活環境被害対策の支援の充実

- ニホンザルは、県全体の平均加害レベルが上昇しており、群れが農地だけでなく集落へ出没することが増加し、生活環境被害が主要な被害になりつつある。
- ニホンザルの被害軽減のためには、国も推奨する群れごとの対策が有効であり、計画的な群れ単位の捕獲が必要。
- 群れ捕獲は、群れの行動圏の把握をしたうえで目標頭数を確実に捕獲する高度な捕獲技術が求められるため、有害捕獲と比較し、期間・経費が必要。
- 群れ捕獲を推進するためにも、新たな事業の創設による財政支援が必要。

(2) カワウ捕獲にかかる技術支援および財政的支援の充実

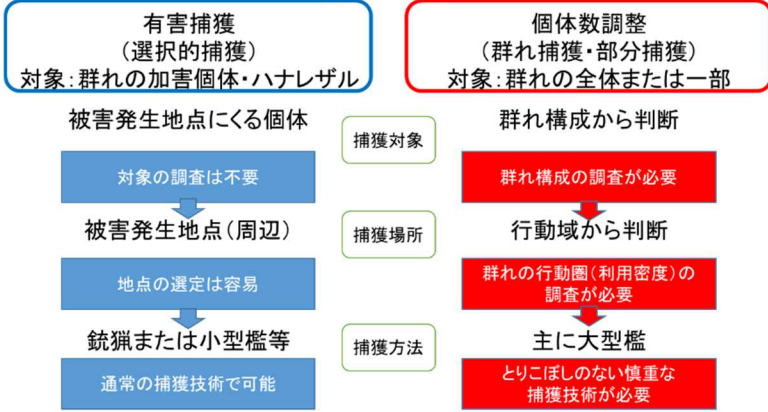
- 本県では、捕獲により春期生息数が約 38,000 羽から約 7,000 羽に減少したが、内陸部への分散化に伴い、令和 4 年春には 17,000 羽を上回るまで増加。
- カワウは、本県だけでなく、全国的に生息数が増加しており、集中的かつ広域的に管理を図る必要があることから指定管理鳥獣に指定し、指定管理鳥獣捕獲等事業による取組を可能とすることが必要。
- 近年、捕獲が困難な内陸部へ生息域が拡大しており、新たな局面を迎えたとの認識。
- 住宅地に隣接してねぐら・コロニーが形成され、また、こうした場所での個体数増加が大きいため対策に苦慮しており、銃器使用の条件整備が急務。
- 一大繁殖地である滋賀県では、これまで取り組んできた銃器捕獲のみでは個体数調整を図ることは困難な状況であり、ねぐら・コロニーや、河川内で効率的に個体数削減につながる新たな捕獲技術の開発が急務であり、国において取り組まれない。

(本県の取組状況と課題)

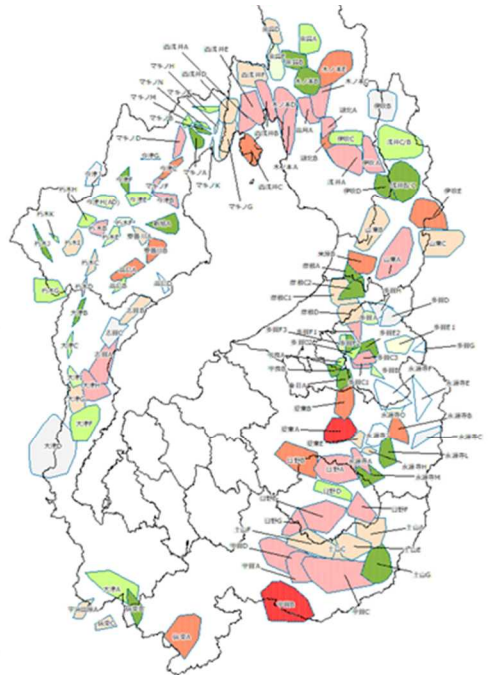
(1) ニホンザルによる生活環境被害対策の支援の充実



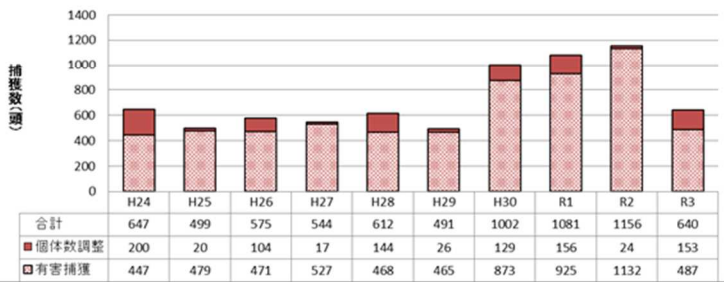
(ニホンザル)
 ○現状、群れの分裂を招く恐れのある有害捕獲が大半を占めており、計画的な捕獲が進んでいない。



<サル群れ分布状況>



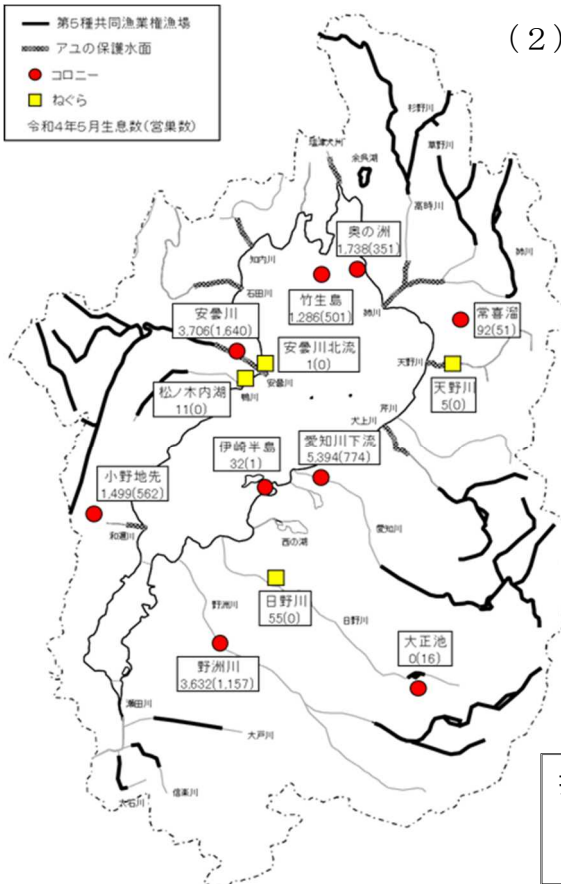
ニホンザル捕獲数の推移



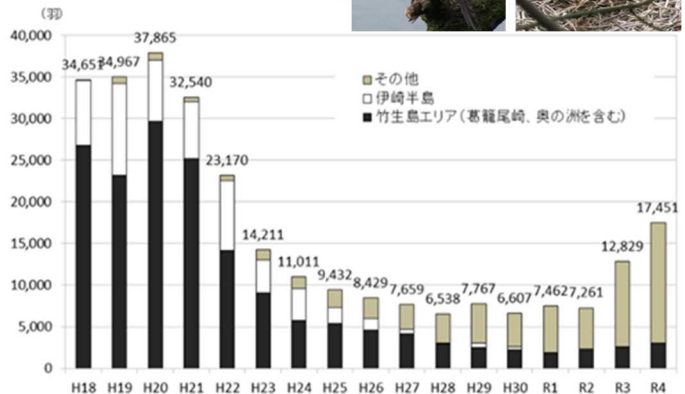
(2) カワウ捕獲技術の研究・開発による支援等

(カワウ)

○内陸部の河川等へ生息域が分散化するとともに、生息数が再び増加に転じている。



<カワウ生息数の推移>



担当：琵琶湖環境部 自然環境保全課鳥獣対策室
 TEL 077-528-3489
 農政水産部 水産課 TEL 077-528-3873